

日本図書館協会学校図書館部会 幹事会記録 (第40期第5回)

日時: 2025年12月14日(日) 午後1時30分～午後5時 web会議

出席: 高橋恵美子・甫仮久美子・中村崇・石黒順子・笠川昭治・佐藤千春・仲 明彦・
長谷川優子・山本敬子/富山美欧
(委任状による出席) 堀岡秀清・松本美智子・

1. 報告・連絡

1) 代議員総会・理事会・常任理事会等 (高橋)

(1) 2025年度第5回常任理事会(11/27 14:00～16:40 オンライン併用)

- 「公益社団法人日本図書館協会理事会から常任理事会に委任される事項に関する理事会申し合わせ」の改正について→執行を委任する事項の「(10) 各種団体開催行事への後援・協賛・共催に関する事項」のアンダーライン部分を加えるもの。
- 2025年度第2回代議員総会の開催について→2026年3月12日オンライン併用のハイブリッド出席型で開催予定。現時点では報告事項のみの見込み。
- 学校図書館部会会員数は332(個人272 施設58 賛助等2)(2025.10.31付)。
- 2025年度災害等により被災した図書館等への助成の審査結果について報告があった。助成機関&助成金額は16機関278万3千円。学校も複数含まれているとのこと。
- 文科省「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議について」、曾木理事より第7回会議(10.7)と第8回会議(11.14)の報告(参考資料1)があった。森理事(公共図書館部会)より、学校図書館部会は存在意義を示されたとの発言があった。高橋より、高校の不読率が「高い」と問題視されていることについて、飯田一史氏の分析では大人と同じであり、国際的にも悪くはない数字であることを発言。学校図書館図書標準に高校も入れてほしいという件についても発言。

2) 政策企画委員会 (高橋・松本) 2025.10.20 11.17

- 『公立図書館の任務と目標解説 改訂版増補』のさらなる改訂、または新タイトルによる検討をすすめている。
- 3月15日に政策セミナーを開催予定。仮題「市民と図書館～ともに図書館のすそ野を広げていくために～」
- 学校図書館関係資料集3を再編集中。

3) 非正規雇用職員に関する委員会 (高橋) 2025.11.5 (大学図書館調査チーム) 11.19 12.10 (大学図書館調査チーム)

- 12月15日(月)13:30～セミナーを開催予定。図書館問題研究会と共催。「変わるか 会計年度任用職員と公契約条例」講師は上林陽治氏。
- 学校図書館調査の資料集作成→A4資料集として作成。
- 大学職員調査を準備中。設問は学校と合わせる方向で、選択肢などを検討中。

4) 図書館非正規雇用改善のための連絡会 (高橋) (「いつも開いている図書館へ ～学校司書の処遇・配置を求める院内集会」実行委員会) 2025.11.17 12.12

- 院内集会を2026.2.3(火)13:30～15:00開催予定。衆議院第一議員会館大会議室。チラシは12月22日頃完成予定。事前に、文科省・総務省あての要望書を作成(院内集会で回答してもらう)。また、事前に関係議員への要請も予定。集会の内容は、報告 日本図書館協会の「見解」(高橋)と「提言」(岡部)、事例報告 現場で働く非正規雇用の学校司書(3名)、講演 野口武悟氏(学校司書の役割、その重要性和必要性)。

5) 図書館雑誌編集委員 (長谷川)

○12月号「学校図書館のこれからを考える」発行。間もなく到着の見込み。

○来年度の窓欄は、学校からは載らない年にあたることになる。

6) 図書紹介事業委員会(笠川・山本)

○11/19にzoom会議を開催。「司書が書く」の2巻が間もなく発行予定。

○2026年度は対面のイベントを行いたいと検討している。12月頃か。内容等具体的には今後検討。次回会議は2/16対面とオンライン併用で開催予定。

○12月号に学校から執筆、2月号を依頼中。3月号笠川が執筆予定。

○正規職員でなくなり原稿依頼の伝手がなくなってきているので、原稿の依頼をどなたかに手伝って頂きたい。執筆者は会員でなくても良い。

7) その他

(1) 文科省「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」経過概要(高橋)

○第5回～第8回会議について部会報70号に掲載。以下、第7回・第8回会議部分の抜粋。

「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」(第7回)

第7回会議は、10月7日に開催された。第7回会議の議題は「今後の図書館・学校図書館に求められる人材の育成」及び「報告書骨子案への意見交換」である。事務局から「論点(案)」の説明、2名の委員による発表、意見交換の後、「報告書の骨子案」について事務局からの説明と意見交換を行う。

発表は、曾木委員「公立図書館に求められる人材育成の現状と今後の充実に向けて」、設楽委員「学校図書館に求められる人材の育成の現状と今後の充実に向けて」。曾木委員は、発表の最後に日本図書館協会が「いつでも開いている図書館へ」という学校司書の配置等に関する提言をまとめ、公開したこと、資料もつけ、提言の柱4つを紹介した。見解に関しては、スライド上にリンク先を示し、併せて見てほしいとのことだった。設楽委員の発表は、「司書教諭の専任化が学校図書館の機能を発揮するのに有効」として、私学の専任司書教諭の活躍、かつての東京都立高校の専任司書教諭の例をあげて説明した。ただし、司書教諭の専任化については最後のまとめの内容には入っておらず、司書教諭が学校図書館に関わる時間を週2時間程度設ける、司書教諭を複数人発令する、にとどまった。学校司書については、1校に1名配置をめざすとあった。

「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」(第8回)

第8回会議は、11月14日に開催された。第8回会議の議題は、「図書館が拓く未来の学びと地域社会～これからの図書館・学校図書館の運営の充実に向けて～」(報告書骨子案)についてである。事務局より説明があり、意見交換を行う。第8回会議については、本原稿作成時点で議事録が掲載されていないため、報告資料と高橋の傍聴時のメモにより記述する。

事務局より報告書骨子案について説明があった。以下に報告書骨子案の全体構成と学校図書館関連部分を抜粋する。全体構成の一部に付した☆印は、全体構成に後に抜粋して掲載している箇所である。

《以下、報告書骨子案抜粋部分》

図書館が拓く未来の学びと地域社会～これからの図書館・学校図書館の運営の充実に向けて～(報告書骨子案)

全体構成

はじめに 報告書の背景及び趣旨等

1. 生涯にわたる学びを支える図書館・学校図書館の機能及び役割

—多くの人が集う地域の「ハブ」、学校の「中心」を担う施設を目指して(仮)→p.2

- (1) 図書館・学校図書館を巡る現状と課題
- (2) 今後求められる機能と役割

【図書館】「読む」×「集う」×「学ぶ」＝「新たな地域共創」へ

【学校図書館】学びの深化を担う学校の「中心」へ

☆1

2. 全ての人に開かれた図書館サービスの構築に向けた方策→p.3-8

- (1) ユニバーサル・アクセスの実現に向けて
(ICT・デジタル化への対応、読書バリアフリーの推進)
- (2) 対話と活動による地域の連携・協働の一層の推進
- (3) 図書館・学校図書館を支える人材の育成・配置の充実

☆2

3. 図書館・学校図書館に係る制度・基準の見直し→p.9

☆3

- (1) 国において今後求められる対応
- (2) 地方公共団体において今後求められる対応

おわりに 今後の施策推進への期待等

抜粋部分(☆)1 1の(2)【学校図書館】

【学校図書館】学びの深化を担う学校の「中心」へ

- 教育課程における学校図書館の位置づけ：「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実と主体的・対話的な学びの実現、情報活用能力の育成
- 近年の学校図書館に見られる取組：「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3機能のほか、様々な子供の「居場所」としての学校図書館の機能や設備を追加、紙資料と電子資料も融合させた活用による学びの促進等
- 子供にとっての地域の「入口」：子供が地域の図書館を利用するきっかけや橋渡し役を担う

抜粋部分(☆)2 2の(3)の2)【学校図書館】

【学校図書館】

- 学校図書館の機能を十分に発揮できる体制の構築 館長(校長)、司書教諭、学校司書の役割の明確化 ➢ 今後の学校図書館に求められる機能と役割を果たすための体制構築
 - ・GIGAスクール構想や読書バリアフリーに対応できる職員の配置促進、資質向上
 - ・ICT支援員等の専門性を有する担当者や福祉部局等の他部署との連携強化
- 安定した学校図書館運営・授業支援等に向けた取組
 - ・司書教諭の業務負担の軽減、複数人配置による分散、11学級以下の学校への配置
 - ・学校司書の専任・常勤職員配置
- 学校図書館を支える人材に対する研修内容の改善・充実
 - ・教育課程の展開に寄与する役割を適切に果たすため、学校司書が学校の経営方針や年間指導計画を理解する必要性
 - ・司書教諭・学校司書のみならず学校長・教師に向けた学校図書館研修実施の重要性
- ICTや読書バリアフリーへの対応も踏まえ、学校司書モデルカリキュラムの改定、あるいは司書養成課程科目を含めた一体的見直し(再掲)

抜粋部分(☆)3 3の(1)(2)

- (1) 国において今後求められる対応

- 国における役割：法令改正や「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」「学校図書館ガイドライン」「学校図書館図書標準」(電子資料対応を含む)の改定について検討等
 - <検討に際してのポイント>
 - ・デジタル化への対応強化
 - ・読書バリアフリー対応の充実
 - ・関係機関等との連携・協働の促進
 - ・人材の育成・配置の充実

➤司書養成課程科目及び学校司書モデルカリキュラムの改定、あるいは一体的見直しの検討等

(2) 地方公共団体において今後求められる対応

➤地方公共団体における役割：図書館・学校図書館運営に係る十分な予算確保、人材の任用(採用)条件・研修の見直し* 等

*研修の内容、実施方法やそれらを担保するための方策(図書館評価や業務委託契約等に盛り込む 等)

《抜粋部分おわり》

第8回会議では、報告書骨子案が中心のやりとりになった。司書教諭についての意見が大変気になる。「メディアの専門職としての司書教諭」など一部の私学を除いて存在しないし、理想論でしかない。「多くの学校で司書教諭が機能していない」(堀川委員意見)現実があるのに、と思う。また、高校の不読率そのものを疑問視する意見が出てこない。学校図書館図書標準に高校を入れるという意見は、日本図書館協会が2023年度まで毎年行っていた図書館関係地方交付税の要望書に入れていた内容である。さらに第7回会議で話題になっていた「読書」の再定義は、この報告書に入らないのだろうか。

(2) 今年度(2025年度)第53回夏季研について(各担当から)

○報告集納品されました。年内に発送します。(仲)

(3) 部会報PDF化についての報告(中村)

○以下、岡部事務局長からの情報。

・部会報を、会員ポータルから配信することは可能。

・学校図書館部会員のメールアドレスを登録者の状況は以下のとおり(12/13現在)。

個人会員 登録あり 162(全体269) 60.2%

施設会員 登録あり 25(全体61) 41.0%

準会員 登録あり 1(全体1)

賛助会員 登録あり 0(全体1)

(合計 登録あり 188(全体332) 56.6%)

(4) 来年度総会の日程について

○5/30(土)or6/6(土)を予定する→次回決定する。

(5) 11月13日に神奈川内公共図書館YA担当と学校司書対象の研修について(高橋)

○「ヤングアダルト世代と読書」のタイトルで話をした。

・読書をあらためて再定義する必要があるという有識者会議の議論について、マンガ等も読書ではないか。

・AIの研究者が、今の自分に影響を与えた本の作者にインタビューした本を見た。その本では、マンガもアニメもテレビドラマも映画も同列に語っていて、コンテンツは問わずに「よむ」世界が広がっている。そう考える必要があるのではないか。

・中国の作家に日本のアニメが影響を与えてもいる。アニメも含めて「よむ」対象となっていると思える。

・この考え方は、受講者にも受け入れられたと思う。

・有識者会議の「再定義」はどんな文脈か? マンガが読書調査の対象に入っていない、本屋で子どもがマンガを買ってくれといったら、それもよいのではないか。

2. 協会 2026 年度事業計画案について

1) 2026 年度部会事業計画案（協会執行部に提出する部会案）

○以下の通り提出する。

1. 事業計画						
(1) 2026年度事業の概要						
第54回夏季研究集会の開催 文部科学省等の学校図書館施策に関する提言等 部会報発行（年3回）						
※以下記入欄は適宜追加してご記入ください。						
(2) 研修事業（研修・セミナー・講座等）						
開催時期	開催場所	名称	内容	継続 新規	予算 要否	
※予算を必要とする事業は予算計画書（事業別）にもご記載ください。（以下同じ）						
(3) 調査・研究事業						
実施時期	名称	内容			継続 新規	予算 要否
8/2~3	第54回夏季研究集会	開催場所は未定			継続	要
(4) 資料刊行・出版事業 ※別途出版企画書も作成してください。						
刊行時期	タイトル					
(5) 図書館振興に係る事業（政策提言・意見表明等）						
実施時期	名称	内容			継続 新規	予算 要否
	文部科学省等の学校図書館施策等に関する提言等				継続	否
(6) その他事業						
実施時期	名称	内容			継続 新規	予算 要否
	部会報発行（年3回）				継続	要

2) 2026 年度部会予算案（協会執行部に提出する部会案）

○2025 年度とおおむね同様の内容で提出する。詳細については、理事・部会長・会計担当幹事に一任する。

3. 来年度(2027年度)第54回夏季研について

1) 開催日・会場・開催形態

- 開催候補日…8/2(日)～8/3(土)を第一候補、7/31(金)～8/1(土)を第二候補とする。
- 開催形態と会場について検討した。会場+オンラインで検討する。会場は今後検討し次回決定する。

2) 内容(テーマ)・講師等

- テーマ・講演講師・実践報告の候補等について検討した。次回決定する。

3) その他

- 開催要項作成担当を笠川さんをお願いする。要項原稿の締切は2/28。

4. 部会報の発行予定

○80号

発行予定…2025年12月予定(製作進行中)

担当…編集=中村+印刷発送=松本

内容…・「学校司書に関する提言」(簡単な経過説明文と本文)(高橋)

- ・文科省有識者会議 第5回(7/17)・第6回(9/2)・第7回(10/)
- ・部会報PDF化についてのアンケート(案作成=佐藤)
→「希望するか」「PDFでも読むか」「部会にメールアドレスを登録することについて
の可否」「web回答できない人は文書で回答を」等
- ・ブックレット『施設設備基準』完成の報告とPR
→チラシ作成(佐藤)…掲載又は折り込み
→「感想お寄せ下さい」の告知も(「部会からのお知らせ」で)

○81号

発行予定…2026年3月頃

担当…編集=仲+印刷発送=松本

締切…2月28日(土)→3月上旬頃印刷発送

内容…・54回夏季研開催案内記事/要項同封

- ・部会役員補充選任の公募公示(中村)
- ・文科省有識者会議報告(高橋)
- ・院内集会(2/3)報告(高橋)
- ・部会報PDF化アンケート結果(佐藤)
- ・原稿募集について、テーマも考えてみる(山本)
→81号掲載に向けて、「AIについてのあれこれ(仮)」的な内容で80号で原稿募集、
81号掲載を想定。例として「AIの使用例活用例」「AI使ってみた(体験談)」「AI
活用の技」「AIのここが心配」等
- ・コラム『AIを使ってみて』(山本)
- ・『施設設備基準』→書評依頼…仲から依頼中

○82号

発行予定…2026年7月頃?

担当…編集= +印刷発送=

締切… / → / 頃印刷発送

内容…・部会総会報告

？・『学校図書館とマンガ』その後（高橋）

※送付担当は部会理事に30部送付する。国会図書館にも2部送付する。

送付先…100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1 国立国会図書館収集書誌部国内資料課

※JLAの封筒を使うが、発送元（宛先不明の場合の返送先）は別に記載する。

※81号以後に掲載する、集会・研究会・実践その他の報告などの原稿企画案を、各幹事が各地域で情報収集・執筆交渉する

6. 今年度の今後の幹事会予定

第40期第6回 2026年2月15日(日) 13:30～17:00 場所未定（役員会MLで検討）

第40期第7回 2026年 月 日() 13:30～17:00 場所未定